

# 2016年 JACD&咬合療法研究会九州支部会\*特別企画

## 「わかりやすい咬合治療」

平成28年10月16日(日曜日): 10時~17時 博多バスターミナルにて

筒井の臨床は、素晴らしいが、その臨床の実際はわかりにくいと言われてきました。

特に咬合においては、筒井歯科独自の特別の物とみられる傾向がありました。

しかし昨年、「包括歯科臨床Ⅱ」が出版されたことで筒井の咬合療法は、より分かりやすく整理され、周知の物となったと感じています。そして実際の臨床もシンプルになり、治療期間も大幅に短縮されています。

今回は、第1部で、治療を進めていくうえでの基本的な考え方を。


第2部で症例を通じて咬合治療の実際の流れをシンポジウム形式でわかりやすく解説していきます。

是非、この機会に、わかりやすくなった筒井の咬合治療に触れていただき、

皆様の日常臨床に生かしていただければと存じます。

咬合療法研究会 会長補佐 木下俊克

### 「咬合基本治療」 筒井歯科・矯正歯科医院 筒井照子




昨秋、「包括歯科臨床Ⅱ」を出版させて頂いた。とにかく勉強になりました。長年興味を持ってきた「咬合」の整理が進みました。

他院からの多くのトラブル症例から勉強になったこと、それは13章の「歯科臨床に残されたもの」の4項目でしたが、同じ項目が「咬合基本治療の第一段階」であることにやっと気づきました。この咬合基本治療は25年位前に昌秀と考えついた「炎症と力のコントロール」です。


ここに戻るための25年だったのでしょうか。もう一度原点に帰ればわかりやすいと思います。整理された「咬合治療」を聞いて下さい。

### 「生理学的咬合と補綴学的咬合の捉え方とその勘所」 筒井歯科・矯正歯科医院 筒井祐介



生理学的咬合とは咀嚼運動を代表とする神経筋機構による機能運動を補綴学的咬合に修飾していく理論だと考えている。今回は実際の臨床での両理論の必要性、また重なるところ、異なるところ等を発表し、その捉え方、勘所などの解説をしたいと考えております。近年筒井塾の咬合論の中で重要なキーワードになった両理論のご理解の一助となれば幸いです。


### 「筒井(生理学的)咬合論をいかに具現化していくか」 株式会社カロス・株式会社KPC 増田長次郎



筒井照子先生の理論を深めていくにしたがって、咬合平面や歯列弓、機能運動に即した咬合器で表現できる機能的咬合面形態の必要性に気づいてきた。どこが干渉なのか、どのように観察すればいいのか、復習を兼ねて出来るだけ簡単に分かりやすく説明していく。そして、新しい分野のデジタル化を取り入れながら、完全ではないにしろ筒井咬合論を具現化し補綴物を安定供給できるかを、筒井祐介先生の症例とリンクさせながらお話ししたい。

### 「顎関節症に対する歯科衛生士の関わり」

筒井歯科・矯正歯科医院 添田美沙



近年、「顎関節症」という言葉を良く耳にするようになってきました。現代病とも言われ、顎の痛みはもちろん、顎に痛みはなくても何らかの違和感を持ち、それを主訴に歯科医院を受診される方は、確実に増えてきたのではないのでしょうか。

今回は、自分を症例にして顎関節症への理解を深めてきた経過をたどり、その後、顎関節症の患者様に歯科衛生士としてどのように関わっていくのかをお話ししたいと思います。